
税理士 無料公開講座シリーズ

Season 6

簿記・財表同時学習者必見！
『効率的学習法のススメ』



資格の学校
TAC

Contents

0	はじめに		1
1	学習内容		2
2	共通点・相違点		6
3	学習法		21

0

はじめに

当セミナーは、簿記論・財務諸表論の同時学習を開始したが、「簿記と財表で全く別の勉強をしている気がする」、「両科目の復習のバランスがうまくとれていない」、「学習時間が足りない」等の悩みを抱えている方に対して、両科目の共通点または相違点を明確にするとともに、効率的な復習方法や学習計画の立て方等を紹介します。

当セミナーによって「簿記論・財務諸表論を同時合格する学習法」を身に付けて、悩みを解消して頂ければ幸いです。

1 学習内容

1 簿記論の学習内容

簿記論では、仕訳を中心とした帳簿上の手続きが出題されます。よって、帳簿上で使用する勘定科目、金額の算定方法といった会計処理を学習します。

2 財務諸表論（計算）の学習内容

財務諸表論（計算）では、株主等の外部の利害関係者に対して提出する財務諸表の作成問題が出題されます。この財務諸表は、「会社計算規則」、「財務諸表等規則」といった規則に基づいて作成するため、日商簿記検定や簿記論で学習した会計処理に加えて、表示形式、表示科目、表示区分、注記といった規則に基づく財務諸表の作成方法を学習します。



参 考 簿記論と財務諸表論（計算）の学習内容の比較

固定資産の売却を基に簿記論と財務諸表論（計算）の学習内容を比較します。

（例）当社は、当期の2月20日に車両（取得原価6,000千円、期首減価償却累計額3,600千円）を子会社であるA社に2,000千円で売却し、代金は翌期に受け取ることとした。事業年度は4月1日から3月31日までであり、減価償却は残存価額をゼロとする定額法により行っている。

《簿記論》

簿記論では、「車両」等の使用する勘定科目、「減価償却費」等の金額の算定方法を学習します。

（単位：千円）

減 価 償 却 累 計 額	3,600	車 両	6,000
減 価 償 却 費※1	1,100	車 両 売 却 益※2	700
未 収 金	2,000		

$$\text{※1 } 6,000 \times \frac{1 \text{ 年}}{5 \text{ 年}} \times \frac{11 \text{ 月}}{12 \text{ 月}} = 1,100$$

※2 差額

《財務諸表論》

財務諸表論では、表示形式、表示科目、表示区分、注記を学習します。

貸借対照表 (単位：千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	
関係会社未収金	2,000

損益計算書 (単位：千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	
減 価 償 却 費	1,100
特別利益	
固 定 資 産 売 却 益	700

損益計算書に関する注記

関係会社との営業取引以外の取引高（固定資産売却高）が、2,000千円ある。



参 考 勘定科目と表示科目

簿記論では「勘定科目」により仕訳を行いますが、財務諸表論では「表示科目」により財務諸表を作成します。これらの科目は一部異なっているものがあるため、どちらの科目を覚えるか戸惑う時があると思いますが、表示科目を優先して覚えると良いです。

なぜなら、簿記論の問題では、使用する勘定科目が問題に与えられる場合が多いですし、また、勘定科目が与えられない場合は、表示科目を使用しても正解となるからです。

なお、上記に示した固定資産の売却について使用する科目に指示がない場合は、売却益は「車両売却益」ではなく「固定資産売却益」でも正解となります。

③ 簿記論と財務諸表論（計算）の学習項目

簿記論と財務諸表論（計算）で学習する項目は次のとおりとなりますが、多くの論点が重複することとなります。

学 習 項 目	簿 記 論	財務諸表論 (計 算)
簿記一巡の手続	○	×
一般商品売買・棚卸資産	○	○
特殊商品売買	○	×
現金・預金	○	○
金銭債権・手形	○	○
有価証券	○	○
有形固定資産・リース取引・減損会計	○	○
無形固定資産・ソフトウェア	○	○
繰延資産	○	○
研究開発費	○	○
貸倒引当金・その他の引当金	○	○
人件費・退職給付会計	○	○
金銭債務・社債	○	○
株主資本	○	○
新株予約権	○	○
税金・税効果会計	○	○
外貨建取引等	○	○
製造業会計	○	○
本支店会計	○	×
建設業会計	○	×
帳簿組織	○	×
推定簿記	○	×
組織再編・企業結合会計	○	×
会社計算規則における財務諸表	×	○
財務諸表等規則における財務諸表	×	○
会計上の変更等	○	○
キャッシュ・フロー計算書	○	○
連結財務諸表	○	○
分配可能額計算	×	○

4 財務諸表論（理論）の学習内容

財務諸表論（理論）では、会計処理方法や表示方法に関する考え方が出題されます。この考え方は「企業会計原則」、「企業会計基準」といった企業会計の基準に基づいて解答するため、これらの企業会計の基準を学習します。

理論の学習は、基準の暗記だけではなく、「なぜ、そのような処理が必要なのか」「なぜ、そのような規定が作られたのか」といった、基準における規定の背後にある考え方も身に付ける必要があります。

一方、理論では、簿記論及び財務諸表論（計算）で学習した会計処理や表示を行う理由を学習することになりますので、これらに関する理解が深まります。

2

共通点・相違点

簿記論と財務諸表論（計算）に関する問題の解答方法から両科目の共通点・相違点を確認していきます。

1 費用・収益の見越・繰延（経過勘定項目）

《簿記論問題》

〈問題〉

甲社の平成24年3月期決算(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)に関する以下の資料に基づいて、決算整理後残高試算表を作成しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表		(単位：千円)	
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
支 払 保 険 料	240		

【資料2】修正及び決算整理事項等

決算整理前残高試算表の支払保険料は、すべて平成23年11月1日から2年間の火災保険料を前払いした際に計上したものである。

〈答案用紙〉

決算整理後残高試算表		(単位：千円)	
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
前 払 保 険 料			
支 払 保 険 料			

《財務諸表論問題》

〈問題〉

甲社の平成24年3月期決算(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)に関する以下の資料に基づいて、会社法及び会社計算規則に準拠した貸借対照表及び損益計算書を作成しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表		(単位：千円)	
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
支 払 保 険 料	240		

【資料2】修正及び決算整理事項等

決算整理前残高試算表の支払保険料は、すべて平成23年11月1日から2年間の火災保険料を前払いした際に計上したものである。

〈答案用紙〉

貸 借 対 照 表 (単位：千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	
固定資産	
投資その他の資産	

損 益 計 算 書 (単位：千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	

《簿記論解答》

〈解答手順〉

前 払 保 険 料※	190	/	支 払 保 険 料	190
------------	-----	---	-----------	-----

$$\text{※ } 240 \times \frac{19\text{月}}{24\text{月}} = 190$$

(注) 決算整理後残高試算表に示されている前払保険料を用いる。

〈解答〉

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
前 払 保 険 料	190		
支 払 保 険 料	50		

《財務諸表論解答》

〈解答手順〉

前払費用※1	120	/	支払保険料	190
長期前払費用※2	70			

$$\text{※1} \quad 240 \times \frac{12\text{月}}{24\text{月}} = 120$$

$$\text{※2} \quad 240 \times \frac{7\text{月}}{24\text{月}} = 70$$

(注) 1年基準を適用して、翌期分は前払費用に計上し、翌々期以降分は長期前払費用に計上する。

〈解答〉

貸借対照表 (単位: 千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	
前払費用	120
固定資産	
投資その他の資産	
長期前払費用	70

損益計算書 (単位: 千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	
支払保険料	50

2 金銭債権と貸倒引当金

《簿記論問題》

〈問題〉

乙社の平成24年3月期決算(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)に関する以下の資料に基づいて、決算整理後残高試算表を作成しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位：千円)			
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
売 掛 金	200,000	貸 倒 引 当 金	1,000
貸 付 金	50,000		

【資料2】修正及び決算整理事項等

- 1 貸倒引当金は、売掛金及び貸付金の期末残高に対して2%設定する。
- 2 貸倒引当金の処理は、差額補充法により行う。

〈答案用紙〉

決算整理後残高試算表 (単位：千円)			
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
売 掛 金	200,000	貸 倒 引 当 金	
貸 付 金	50,000		
貸 倒 引 当 金 繰 入			

《財務諸表論問題》

〈問題〉

乙社の平成24年3月期決算(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)に関する以下の資料に基づいて、会社法及び会社計算規則に準拠した貸借対照表及び損益計算書を作成しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表				(単位: 千円)
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額	
売 掛 金	200,000	貸 倒 引 当 金	1,000	
貸 付 金	50,000			

【資料2】修正及び決算整理事項等

- 1 売掛金のうち30,000千円は子会社であるA社に対するものである。なお、関係会社に対する債権は独立科目により表示する。
- 2 貸付金の返済期日は平成24年11月30日である。
- 3 貸倒引当金は、売掛金(関係会社に対するものを含む)、及び貸付金の期末残高に対して2%設定する。
- 4 貸倒引当金の表示は、科目別間接控除法による。
- 5 貸倒引当金の繰入は、戻入と相殺し、その残額を対象債権の割合に応じて販売費及び一般管理費又は営業外費用に計上する。

〈答案用紙〉

貸 借 対 照 表 (単位: 千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	
売 掛 金	
貸 倒 引 当 金	△

損 益 計 算 書 (単位: 千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	
営業外費用	

《簿記論解答》

〈解答手順〉

貸倒引当金繰入	4,000	/	貸倒引当金※	4,000
---------	-------	---	--------	-------

※ (売掛金200,000+貸付金50,000) × 2% - 前期末貸倒引当金1,000 = 4,000

〈解答〉

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	200,000	貸倒引当金	5,000
貸付金	50,000		
貸倒引当金繰入	4,000		

《財務諸表解答》

〈解答手順〉

1 A社に対する債権

関係会社売掛金	30,000	/	売掛金	30,000
---------	--------	---	-----	--------

2 貸付金

短期貸付金	50,000	/	貸付金	50,000
-------	--------	---	-----	--------

3 貸倒引当金

(1) 戻入・繰入

貸倒引当金	1,000	/	貸倒引当金戻入額	1,000
貸倒引当金繰入額	5,000	/	貸倒引当金※	5,000

※ 売掛金 $170,000 \times 2\% = 3,400$
 関係会社売掛金 $30,000 \times 2\% = 600$ } 合計5,000
 短期貸付金 $50,000 \times 2\% = 1,000$

(2) 貸倒引当金繰入額の表示

$$\text{販管費} : (5,000 - 1,000) \times \frac{170,000 + 30,000}{170,000 + 30,000 + 50,000} = 3,200$$

$$\text{営業外費用} : (5,000 - 1,000) \times \frac{50,000}{170,000 + 30,000 + 50,000} = 800$$

(注) ① 関係会社に対する債権は独立科目で表示するため、A社に対する売掛金は「関係会社売掛金」として表示する。

② 貸付金は1年基準を適用して、「短期貸付金」として表示する。

③ 貸倒引当金の表示は科目別間接控除法であるため、科目ごとに貸倒引当金の設定額を算定する。

④ 貸倒引当金の戻入と相殺した後の繰入額は、売掛金に対応する分は販売費及び一般管理費に表示し、貸付金に対応する分は営業外費用に表示する。

〈解答〉

貸借対照表 (単位: 千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	
売 掛 金	170,000
貸 倒 引 当 金	△ 3,400
関 係 会 社 売 掛 金	30,000
貸 倒 引 当 金	△ 600
短 期 貸 付 金	50,000
貸 倒 引 当 金	△ 1,000

損益計算書 (単位: 千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	
貸倒引当金繰入額	3,200
営業外費用	
貸倒引当金繰入額	800

－ メ モ －

③ 有形固定資産

《簿記論問題》

〈問題〉

丙社の平成24年3月期決算(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)に関する以下の資料に基づいて、決算整理後残高試算表を作成しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位：千円)			
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
建 物	100,000	建物減価償却累計額	18,000
備 品	30,000	備品減価償却累計額	6,000

【資料2】決算整理事項等

有形固定資産の減価償却方法は次のとおりである。

区 分	償 却 率	償却方法	残存割合
建 物	0.02	定 額 法	10%
器 具 備 品	0.20	定 率 法	10%

〈答案用紙〉

決算整理後残高試算表 (単位：千円)			
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
建 物	100,000	建物減価償却累計額	
備 品	30,000	備品減価償却累計額	
建物減価償却費			
備品減価償却費			

《財務諸表論問題》

〈問題〉

丙社の平成24年3月期決算(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)に関する以下の資料に基づいて、会社法及び会社計算規則に準拠した貸借対照表及び損益計算書を作成するとともに、貸借対照表等に関する注記を示しなさい。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表		(単位：千円)	
借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
建 物	100,000	建物減価償却累計額	18,000
備 品	30,000	備品減価償却累計額	6,000

【資料2】決算整理事項等

- 1 有形固定資産の減価償却方法は次のとおりである。

区 分	償 却 率	償却方法	残存割合
建 物	0.02	定 額 法	10%
器 具 備 品	0.20	定 率 法	10%

- 2 減価償却累計額の表示は直接控除科目別注記法による。

〈答案用紙〉

貸借対照表 (単位：千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
固定資産	
有形固定資産	
建 物	
備 品	

損益計算書 (単位：千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	

貸借対照表等に関する注記

--

《簿記論解答》

〈解答手順〉

建物減価償却費※1	1,800	／	建物減価償却累計額	1,800
備品減価償却費※2	4,800	／	備品減価償却累計額	4,800

※1 $100,000 \times 0.9 \times 0.02 = 1,800$

※2 $(30,000 - 6,000) \times 0.20 = 4,800$

(注) 決算整理後残高試算表に示されている建物減価償却費、建物減価償却累計額、備品減価償却費、備品減価償却累計額を用いる。

〈解答〉

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
建物	100,000	建物減価償却累計額	19,800
備品	30,000	備品減価償却累計額	10,800
建物減価償却費	1,800		
備品減価償却費	4,800		

《財務諸表論解答》

〈解答手順〉

減価償却費※1	1,800	／	建物減価償却累計額	1,800
減価償却費※2	4,800	／	備品減価償却累計額	4,800

※1 $100,000 \times 0.9 \times 0.02 = 1,800$

※2 $(30,000 - 6,000) \times 0.20 = 4,800$

(注) ① 減価償却費を用いて一括計上する。

② 減価償却累計額の表示は直接控除科目別注記法であるため、貸借対照表の有形固定資産は減価償却累計額を控除した額を計上し、科目ごとの減価償却累計額を注記する。

〈解答〉

貸借対照表 (単位: 千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
固定資産	
有形固定資産	
建 物	80,200
備 品	19,200

損益計算書 (単位: 千円)

科 目	金 額
販売費及び一般管理費	
減 価 償 却 費	6,600

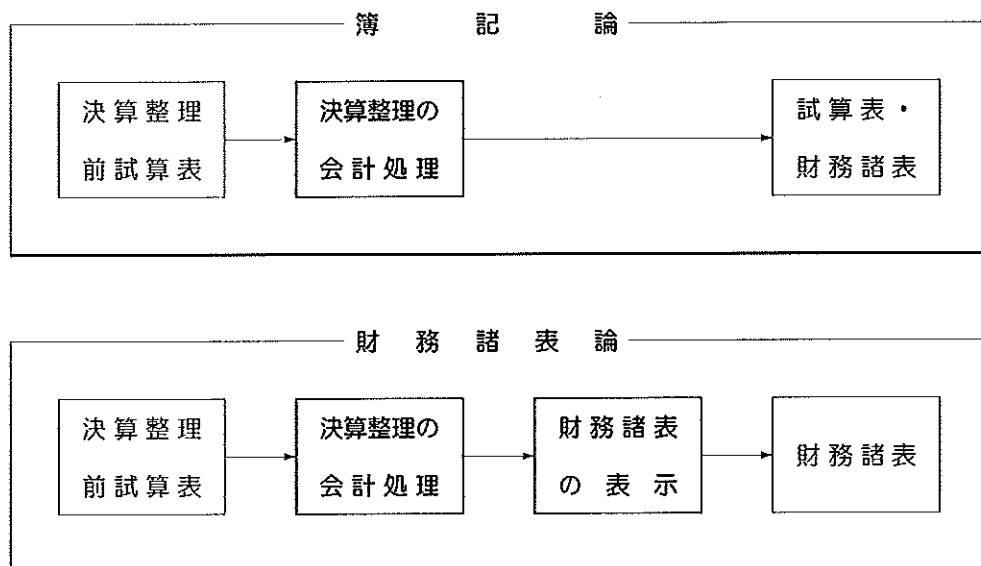
貸借対照表等に関する注記

有形固定資産から減価償却累計額がそれぞれ控除されている。

建物19,800千円 備品10,800千円

4 簿記論と財務諸表論（計算）の解答手順

簿記論における決算整理を中心とした総合問題と財務諸表論における計算の総合問題の解答手順は次のとおりとなります。



〈共通点〉

金額の算定方法等の決算整理の会計処理は同じ。

〈相違点〉

簿記論では、問題に与えられた勘定科目を用いて仕訳を行う。

財務諸表論では、表示形式、表示科目、表示区分、注記を考慮する。

よって、決算整理の会計処理は簿記論と財務諸表論で学習内容はほぼ同じであるのに対し、財務諸表の表示は財務諸表論固有の学習内容となります。

3

学習法

1 簿記論と財務諸表論（計算）の同時学習法

次の手順で学習を行うと効率が良いです。

ステップ1

簿記論の個別問題を解く

前述のとおり簿記論と財務諸表論の会計処理はほぼ同じです。よって、会計処理は簿記論の出来具合が財務諸表論の出来具合に繋がってしまうため、簿記論の個別問題を解いてしっかりと身に付けましょう。

ステップ2

簿記論の総合問題を解く

簿記論における決算整理を中心とした総合問題は、財務諸表論（計算）の総合問題と同じ形式となります。よって、簿記論の総合問題を解答することで身に付けた集計方法は、財務諸表論（計算）の総合問題を解答する際に活用することが出来ます。

ステップ3

財務諸表論の個別問題を解く

財務諸表の表示方法は財務諸表論固有の学習内容となりますので、財務諸表論の個別問題を解いて身に付ける必要があります。

なお、財務諸表論の個別問題には、「会計処理」に主眼が置かれた問題と「財務諸表の表示」に主眼が置かれた問題とがありますので、効率性を考慮し、前者については解く回数を減らし、後者を中心に解くようにしましょう。

ステップ4

財務諸表論の総合問題を解く

ステップ3までで身に付けたものを活用して財務諸表論の総合問題を解きましょう。

2 同時学習での悩み

簿記論・財務諸表論を同時に学習していると、様々な悩みが出てきます。ここでは、その典型的な「お悩み」とその対処法について触れていきます。

お悩みその1

時間が足りなくて個別問題を繰り返し解くことができない

対 処 法

(1) 講義を受講したらできる限り早く問題を解く

講義を受講してから時間が空いてしまうと、記憶が薄れて内容を思い出すのに時間がかかってしまいます。よって、講義を受講したらできる限り早く個別問題を解きましょう。

(2) 問題を解く順序を変える

個別問題には、「問題」、「応用」あるいは「まとめ」の問題があります。この中で、「応用」と「まとめ」の問題は「基礎」の問題が身に付いている事を前提に作成されています。よって、「基礎」、「応用」、「まとめ」の問題を一気に解くのではなく、「基礎」の問題から手を付けて基礎力を身に付けてから「応用」、「まとめ」の問題を解くようにしましょう。

(3) 問題を解く回数を調整する

すべての問題を同じ回数解くのではなく、得意な論点の問題は解く回数を減らし、苦手な論点の問題は解く回数を増やすという調整をすると、全体の解く回数は変わらずに苦手な論点を解消することもできます。

お悩みその2

「応用」の問題または「まとめ」の問題が解けない

対 処 法

(1) 基礎力を付ける

前述のその1に示したとおり「応用」と「まとめ」の問題は、基礎力が身につけている事を前提に作成されています。また、「応用」と「まとめ」問題にはボリュームが多いものがあります。よって、「基礎」の問題を解いて基礎力を付けて、かつ、繰り返し解いて知識を身に付けて思い出す時間を短縮しましょう。

(2) 会計処理等を行う上で必要な事項を把握する

「応用」と「まとめ」の問題では、問題の資料が複雑になっていたり、あるいは、解答する上では使用しない資料が与えられている場合があります。これらに対応するために、「基礎」の問題で会計処理等を行う上で必要となる事項を把握して、これらの事項を考慮して問題の資料を読むことを目指していきましょう。

お悩みその3 計算で苦手な論点がある

対処法 苦手論点は集中して学習すると克服できます。よって、1日学習できる日を作り、午前中に「基礎」の問題を繰り返し解いて、午後に「応用」や「まとめ」の問題を解くと良いでしょう。

お悩みその4 計算の総合問題が苦手である

対処法 総合問題が苦手な原因として次のものが考えられますので、原因を分析して対処を行ってください。

(1) 解答時間が足りない

解答時間が足りない原因として次のものが考えられます。

① 出題された論点の会計処理や計算方法を思い出すのに時間がかかる
この場合、その会計処理等を定着させることが必要となるため、個別問題を解く回数を増やしましょう。

② 集計が上手くいかない

この場合は集計方法を確立しましょう。具体的には、期中取引を中心した問題の場合はT勘定を用いて集計を行い、決算整理を中心した問題の場合は試算表の金額欄に金額の増減を+又は△で記入して集計を行っていくとよいです。

(2) 個別問題は解けるが総合問題が解けない

個別問題と総合問題の大きな違いは、個別問題は出題された論点で必要となる科目及び資料しか与えられていませんが、総合問題は他の論点の科目及び資料も与えられています。よって、個別問題を解く段階でその論点に必要な科目及び資料を確認し、総合問題でこれらを拾い上げることができるようになることを目指していきましょう。

お悩みその5 ケアレスミスが多い

対処法 ケアレスミスの具体例として「問題文を読み間違えた」、「月数を数え間違えた」、「電卓を打ち間違えた」等があります。これらの原因の大半は、問題を速く解きたいと思って慌ててしまうことにあります。

ケアレスミスは、丁寧に問題に取り組むことで防ぐことができます。「問題文を最後まで読んでから解答する」、「月数を指折り数える」、「数字を確認しながら電卓を打つ」等を問題を解く際に常に意識するようにしましょう。

お悩みその6

簿記論は得意だが、財務諸表論（計算）が苦手

対処法

財務諸表の作成方法（表示形式、表示区分、表示科目、注記）が弱点となっていますので、財務諸表論の個別問題を解きましょう。

お悩みその7

財務諸表論（計算）は得意だが、簿記論が苦手

対処法

簿記論の問題は、簿記一巡の手続きを重視して問題が作成されています。よって、各論点における処理の時点（処理の流れ）を大切に簿記論の個別問題を解きましょう。

お悩みその8

財務諸表論（理論）の暗記が上手くいかない

対処法

(1) 学習方法を確立する

理論は暗記と理解が必要となりますので、これらを身に付ける場合、「暗記してから理解する方法」と「理解してから暗記する方法」の2つがあります。また、暗記する方法も「書いて覚える方法」と「読んで覚える方法」の2つがあります。よって、これらの組み合わせで4つの方法がありますので、これらの方法を試して自分に合う方法をみつけて下さい。

なお、「読んで覚える方法」を取る場合には、解答する際に誤字がないようにするために、必ず覚えたものを書く事を行って下さい。

(2) 理論暗記を規則的に行う

暗記を苦手にされている場合、苦手意識から理論暗記を後回しにしてしまう方もいると思います。そこで、「通勤または通学の時間は理論暗記を行う」、あるいは「寝る前の30分は理論暗記を行う」等、時間を決めて理論暗記を規則的に行って下さい。

(3) 日々の暗記する量を調整する

講義において暗記する量が多いと、その量に圧倒されてしまって理論暗記に対するモチベーションが上がらない場合もあると思います。このような場合には、「1日ですべて暗記しよう」とせずに暗記を数日に分けて行う、「重要なキーセンテンスのみを暗記する」等の日々の暗記する量を調整すると良いでしょう。

お悩みその9

財務諸表論（理論）で暗記した文章を忘れてしまう

対 処 法

覚えた文章を忘れてしまうことは当たり前の事なので、忘れてしまうことを前提に学習を行う必要があります。そのため、前に暗記したものを定期的（1ヶ月ごと等）に思い出す事を行って、忘れた理論がないかを確認していきましょう。

お悩みその10

財務諸表論（理論）の理解が上手くいかない

対 処 法

(1) テキストを読む

テキストには、理論の内容に関する説明が書かれていますので、これを読んで理解をしていきましょう。

(2) 講義の板書を見直す

講義の板書は、内容をイメージしてもらうために書かれたものもありますので、この板書を活用して理解を深めていきましょう。

(3) 自分でまとめる

理解するために色々と考えたが、頭の中だけで考えたため明確にする事が出来なかったという場合もあると思います。そのため、考えたものをメモする（図にする等）ことを行くと、目に見えるものがあるので明確になってきます。

(4) 用語を大切にする

理論では、会計学独特の用語が出てきます。この用語の意味が不明なため、理解ができない場合もあると思います。このような場合は、講師に質問したり、インターネットで調べたりして用語の意味が把握できると理解できるようになります。

③ 学習計画を立てる

簿記論と財務諸表論の2科目を学習すると学習内容が多くなるため、効率的な学習を行う必要があります。効率的な学習をするためには、「週間（習慣？）スケジュール表」を作成し、実行していきましょう。スケジュール表を作成する上で、次の事項を考慮してください。

1 優先順位を考えて、無理のないスケジュールを

無理な学習計画を立てたせいで、志半ばで挫折してしまう方も少なくありません。したがって、生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもったスケジューリングを心がけましょう。週間スケジュール表作成にあたっては、次の順序で埋めていくとよいでしょう。

- (1) コアタイム（睡眠、食事、移動、就業時間、大学講義、TAC講義等）を記入
- (2) 各科目ごとの復習する時間を記入
- (3) 余った時間はフリータイム（完全休息日を設ける等、必ず息抜きする時間を設ける）

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方がたくさんいらっしゃいます。夜の疲れ切った頭より、朝のすっきりした頭で学習した方が効率的だからというのが理由です。短い時間ではありますが、時間が制約される分、かえって集中することになり、効率的に学習できます。

3 復習するタイミング

(1) 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。まさに、「鉄は熱いうちに打て！」です。

(2) 計算は毎日学習

計算の知識は、反復練習が大変効果的です。30分だけの日があってもかまいません。毎日学習しましょう。

(3) 理論は、移動時間も利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。時間を上手に使い、効率良く学習して下さい。

4 目的を持ち、その上で学習すべき内容を決める

「今日の講義の復習する」、「苦手論点を克服する」等の目的を持って解く問題等を決めましょう。また、その際に「計算問題を10題解こう！」とか「理論1題を必ずマスターしよう！」というようノルマも決めて学習しましょう。その方が集中力が高まりますし、達成感を味わうことでモチベーションも高まります。この小さな目標をコツコツ達成していけば、最後には大きな目標も達成できます。まさに「ちりも積もれば山となる」です！

 参 考 1 週間のスケジュール

1 モデルプラン（社会人の場合）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(財表)	睡眠
8:00	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由	自由
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	移動(暗記)	
12:00						講義 (財表)	
14:00						休憩	
16:00						講義 (財表)	
18:00						休憩	
20:00	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	復習(財表)	復習 (予備)
22:00	講義 (簿記)	自由 復習(財表)	自由 復習(財表)	講義 (簿記)	自由 復習(財表)	復習(簿記)	
0:00	移動(暗記)	自由	自由	移動(暗記)	自由	移動(暗記)	
2:00	自由	自由	自由	自由	自由	自由	
4:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠

※ 移動時間を利用して財務諸表論の理論を暗記する

2 あなたの学習プランは？

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00							
8:00							
10:00							
12:00							
14:00							
16:00							
18:00							
20:00							
22:00							
0:00							
2:00							
4:00							